

水辺活動

プログラム名	湖岸の生物観察 ※団体主導			
概要	箱めがね等を使用し、湖岸の生き物を採取し、観察する。※入水は膝丈までとし、海水浴と区別する。			
ねらい	磯に入って生き物を観察したり、生き物に触れたりして、自分の住んでいる地域との環境の違いを感じながら自然と親しむことができる。湖岸の漂流物などから、環境問題について考えるきっかけができる。			
条件	対象	全年齢	人数（指導者人数）	～200人（5人以上）
	活動目安時間	90分～150分	活動時期	4月～10月
	活動場所	東、西湖岸	費用	不要
	下見	要	活動名簿提出	要
持ち物・準備	（個人）軍手、帽子、タオル、濡れてもよい靴（サンダルやクロックスタイプは不可） Tシャツ、ズボン、水着（水着のみでの活動は不可） （団体）必要に応じて研修生・指導者の飲料 （貸出）凶鑑、バケツ、箱メガネ、たらい			
安全上の留意点 （対策方法）	転倒・石場での足のケガ（注意喚起を行う。靴着用の徹底） 熱中症・脱水症状（適度な水分補給と休憩、帽子の着用を徹底） 自然災害（気象状況の把握、落雷等の恐れがあるときは速やかに艇庫へ避難） 有毒生物等によるケガ（危険生物を見つけたら所員・指導者に報告、長袖長ズボンの着用、事前の注意喚起） 溺水（活動範囲よりも沖にいかない）※入水は膝丈まで			
<b>活動内容（手順）</b>				
事前①指導者配置の決定：所定の「活動プログラム時の引率指導者の役割分担表」を作成、提出 ②グループ編成：実施に適したグループ編成をし、活動名簿を提出（活動名簿はHPからダウンロード可能） ③研修生への事前指導：活動の「概要」「ねらい」「安全上の留意点」等を指導 ④研修生の服装の確認：活動場所では、貝殻等で怪我をする可能性があるため必ず靴を履いて活動				
活動前①打合せ（活動10分前）：事務室前で所員と引率責任者・担当責任者にて実施 実施判断：気象を基に、協議の上、実施 確認事項：人数、グループ数、体調、活動範囲、活動時間、服装、貸出備品（裏面参照）				
活動①指導：指導者より、活動の説明 ②活動開始 ③まとめ ④振り返り：活動の感想を発表 ⑤確認事項：人数、体調 ⑥片付け：バケツ、箱メガネ等をすべて洗ってピラミッド型に重ねて干す（指導者は、バケツ等の片付けの状況を確認） 本館に戻り次第、石鹸を使って手洗い ⑦報告：所員へ終了・研修生の体調を報告				

<その他>

※活動終了後、採った生物は浜名湖に戻す（持ち帰らない）

・有毒生物として、主に、赤クラゲ・オコゼ・アカエイが挙げられる。（裏面画像参照）

◆赤クラゲに刺されたときは…海水で患部を洗う→ゴム手袋をつけ、ピンセットで触手を取り除く→医療機関へ

◆オコゼに刺されたときは…棘を抜く→熱いお湯（45℃以下）に30分以上浸ける→医療機関へ

◆アカエイに刺されたときは…患部を洗う→毒針を抜き毒を絞り出す→熱いお湯（45℃以下）に30分以上浸ける→医療機関へ



赤クラゲ



オコゼ



アカエイ

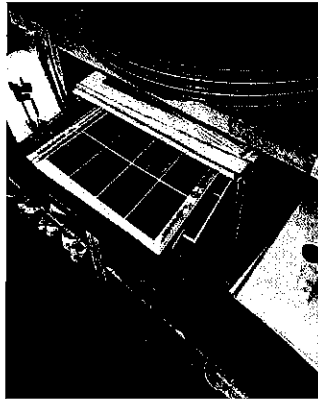
浜名湖で代表的な有毒生物



〈湖岸観察で使う道具の場所・片付け方〉

準備①

艇庫7番内、ライフジャケット横  
棚上にバケツ、中に箱メガネがある



準備②

棚上のバケツ横に観察用たらい  
レターケース内に生物一覧シートがある



片付け（艇庫9番前）

- ①バケツ・箱メガネ等すべて水洗い
- ②ピラミッド型に重ねて乾燥する